

京都大学教育研究振興財団助成事業
成果報告書

平成27年9月4日

公益財団法人京都大学教育研究振興財団
会長 辻 井 昭 雄 様

所属部局 文学研究科

職 名 教授

氏 名 宇佐美 文理

助成の種類	平成27年度・研究成果公開支援・国際会議開催助成		
事業内容	「経学史研究的回顧與展望—林慶彰先生榮退紀念」學術研討會		
開催期間	平成27年8月20日 ～ 平成27年8月21日		
開催場所	京都大学文学研究科第三講義室		
参加者	総数 102名	内 訳: 台湾49名、中国大陸31名、日本9名、香港8名、韓国2名、米 国・イギリス・ドイツ各1名	
成果の概要	タイトルは「成果の概要／報告者名」として、A4版2000字程度・和文で作成し、添付して下 さい。「成果の概要」以外に添付する資料 無		
会計報告	事業に要した経費総額	3,040,994円	
	うち当財団からの助成額	950,000円	
	その他の資金の出所	(機関や資金の名称) 北京大学礼学研究センター、林慶彰氏、林登昱氏	
	経費の内訳と助成金の使途について		
	費 目	金 額 (円)	財団助成充当額 (円)
	旅費交通費	863,828	763,748
	会場・会議費	91,069	0
	印刷製本費	535,840	135,000
	通信運搬費	68,948	0
	謝金	401,195	0
消耗品費	57,700	51,252	
レセプション	1,022,414	0	
合 計	3,040,994	950,000	
当財団の助成に ついて	助成をいただき、本当に助かりました。ありがとうございます。意見などは特にごさ いませ		

成果の概要／宇佐美文理

事業名：「経学史研究的回顧與展望—林慶彰先生榮退紀念」學術研討會

本国際会議、「経学史研究的回顧與展望—林慶彰先生榮退紀念検討会」は、2015年8月20日、21日の両日にわたって、京都大学文学研究科第三講義室において行われた。

参加者は、台湾から49名、中国大陸から31名、日本9名、香港8名、韓国2名、米国・イギリス・ドイツ各1名の総勢102名で、聴講した学生も含めれば115名という、経学史研究史上では、おそらく空前絶後の規模の国際会議となった。

呼びかけ人のプリンストン大学教授ベンジャミン・エルマン先生、台湾中央研究院王汎森先生、京都大学名誉教授池田秀三先生、清華大学教授彭林先生は、いずれも世界的に著名な学者で、そのうち、エルマン先生、池田秀三先生には御講演をいただいた。（なお、やはり講演をお願いしていた王汎森先生は、急なご病気のため、医師に来日を止められたため、ビデオによる挨拶をいただいた。）

発表者は全部で87名、8つのセクションを作って発表と討議を行った。（詳細は、下記ホームページ内の「会議議程」を参照。）それぞれのセクションの論文集は印刷製本して各セクションの発表者に配布した（大部なため、添付していない）が、全体の論文集を印刷することはせず、pdfの形で参加者全員に配布した。（ちなみに、総ページ数は1,197ページ）なお、全体の論文集については、後日、出版の計画があることを申し添えておく。

本国際会議は、規模的なことは言うまでもなく、内容的にも非常に充実した会議となった。これは世界の経学研究史において、おそらく永遠に記憶される、文字通り記念すべき会議となり、また、世界的に著名な林慶彰先生の退職を記念する会にふさわしいものになったと確信している。

また、このような国際会議を、京都大学で開催したことは、京都大学文学研究科の、経学の分野における、創設以来の貢献がいかなるものであったかを示すとともに、今後、本研究科中国哲学史研究室が教育研究を進めて行くうえでも、極めて重要な学会となったものと思われる。

本会議は、貴財団の助成の他、北京大学礼学中心による多大な財政援助の元に行われた。また、林登昱先生からもご寄付を頂いた。あわせてここに感謝申し上げる。（なお、申請当初は、台湾中央研究院からも助成を受ける予定であったが、諸般の都合によりそれはとりやめになっていることを申し添える。）

貴財団からの助成金は、林先生陳先生ご夫妻ならびに呼びかけ人の諸先生の旅費等を主な用途とし、さらに、本学附属図書館所蔵の昌平鬻の版木による印刷のために使用した。（添付した画像ファイルを参照）

これは、本会議の主題が「経学史」つまり、中国の儒学の経書に関わる学問の歴史であることにかんがみて、本会議が日本で開かれることから、江戸時代に幕府が開いた昌平鬻（昌平坂学問所）において、儒学の経書を中心に出版をしたという歴史的な事実を、出席者にまさしくその実物に触れて実感してもらおうと意図したものである。幸いに、本学には、昌平鬻が出版した版木6000余枚が所蔵されており、今回は、数次にわたる版木調査の後、この「石経考」（石に彫られた経書について考証をした書物）の巻頭部分が、刻版の状況等も良好であり、本会議にもふさわしいものとして選定され、印刷に及んだものである。左下に押された印は、今回これも貴財団の資金によって作成された「京都大学附属図書館蔵板」（京都大学附属図書館が持っている版木で刷った、という意味）の印である。ちなみに、右上に押されている印は、このシンポジウム自体の記念の印記である。

なお、本会議の報告は、京都大学文学研究科中国哲学史研究室のホームページ上でも公開している。http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/history_of_chinese_philosophy/20150820/